

チャンネルキャットフィッシュ (イクタルルス科)

上：体長約 20 cm の若魚，下：体長 48 cm のオス成魚。

学名：*Ictalurus punctatus*

別名：アメリカナマズ

大きさ：全長 50 cm

特徴：体は細長く、鱗はない。口ヒゲは 4 対 8 本。脂びれがある。胸びれと背びれには太い棘がある。この棘は小型個体ほど鋭い。体色は稚魚では灰色がかかった黄色で、尾びれの縁辺は黒い。若魚には体側に不規則な黒斑があるが、成魚では消える。体長約 5 cm より小さな頃では黒斑は表れてい

ない。成魚の体色は背側で暗い灰色、腹側で明るい灰色。頭部は成長するにしたがい縦扁するが、成魚のオスとメスでは形状が異なり、オスの頭幅はメスよりも広い。産卵はオスがつくった産卵床で行われ、オスが卵と仔魚を保護する。

国内の分布：福島県阿武隈川水系、利根川水系(茨城県、千葉県)および霞ヶ浦水系、岐阜県下小鳥湖、愛知県矢作川。琵琶湖などでも採捕記録がある。

県内の分布：利根川水系，霞ヶ浦水系に広く分布する。霞ヶ浦では1981年に初めて確認された。生息量が増加したのは霞ヶ浦で2000年頃，北浦では2002年頃。2008年5月と2009年10月には那珂川水系の涸沼でも確認されたが，漁業者によれば，それ以前にも稀にみられたらしい。

県内での生態：霞ヶ浦における生態を記す。本種の産卵期は主に5～7月。成熟は，大きさでみればオス，メスともに体長約39 cm以上から，年齢で見ればオスでは3歳から，メスでは4歳から。本種の成熟サイズは湖によって異なり，原産地の北米大陸のある湖では2歳，16 cmからと報告されている。抱卵数は体重1 kgあたり約10,000粒。餌生物は，稚魚期には動物プランクトンやイサザアミで，体長14 cm以上ではテナガエビやハゼ科魚類がよく食べられている。本種は目で餌を探すのではなく，下顎のヒゲで探索，捕食するため，表層や中層をよく泳ぐ生物よりも水底にいる生物が捕食されやすいと考えられている。湖内での分布は季節で異なり，基本的には冬季は深所，春季から秋季は深所から浅所に広く分布する。

備考：北アメリカ原産で，日本には養殖対象種として1971年に移入された。外来生物法において特定外来生物に指定されている。

漁業者にとって本種は，その棘で網や漁獲物を破損するほか，手の怪我，漁獲物の選別の煩雑化などの問題を引き起こしている。漁獲物の横取り（漁網中での漁獲物の捕食）も生じている（写真1）。そのため霞ヶ浦・北浦やその流入河川の桜川などでは漁業者や漁業協同組合による駆除が行われている。その一方では地元商工会等が食用



写真1：張り網漁獲物の横取り実態。胃の中には未消化の魚がたらふく入っている。

への活用に取り組んでおり，ハムやハンバーガー，押し寿司，フィッシュ&チップスなどに加工して販売している。

主な文献：

- 荒山和則（2010）特定外来生物チャネルキャットフィッシュに捕食される魚類。日本水産学会誌，76: 68-70.
- 半澤浩美（2004）霞ヶ浦におけるチャネルキャットフィッシュ (*Ictalurus punctatus*) の食性，茨城内水試調査研究報告，39: 52-58.
- 半澤浩美・野内孝則（2006）霞ヶ浦におけるチャネルキャットフィッシュの産卵生態—産卵期・抱卵数・成熟サイズ—。茨城内水試研究報告，40: 1-6.
- 半澤浩美・荒山和則（2007）霞ヶ浦における外来魚チャネルキャットフィッシュの季節的分布様式。水産増殖，55: 515-520.
- 荻原富司（2007）チャネルキャットフィッシュ。平成調査—新・霞ヶ浦の魚たち（荻原富司・熊谷正裕編著）。霞ヶ浦市民協会，土浦。pp. 75-76.
- 片野 修 他（2010）日本におけるチャネルキャットフィッシュの現状。保全生態学研究，15: 147-152.
- 野内孝則・荒山和則・富永 敦（2008）霞ヶ浦北浦で確認された外来魚の導入経緯。茨城内水試研究報告，41: 47-54.